

資料 2

第2回 「考える会」 意見の整理

第3回 蘭越と尻別川を考える会

昭和50年8月洪水の氾濫状況



地点雨量
 喜茂別 : 211mm/2日
 俱知安 : 148mm/2日
 蘭越 : 238mm/2日
 ピーク流量
 名駒 : 1,493m³/s
 氾濫面積 : 3,508ha

浸水実績図

[築堤状況]

- 無堤・計画有り
- - - 暫定
- 完成

[氾濫域]

- 外水氾濫
- 内水氾濫



米子築堤破堤状況



三和築堤溢水状況

平常時の河川整備・維持管理

- ◆ 災害を未然に防止するためには、平常時の整備・管理が不可欠である。
- ◆ 河川の状態を的確に把握し対応することで、計画的に整備を進め、災害の防止に万全を期することが可能となる。

平常時の河川管理（巡視・施設点検）



河川巡視



観測所点検



護岸空洞化点検

管理行為（不法投棄処理等）



不法投棄処理

平常時の河川管理設備の維持管理



水位観測所の除草



堤防の除草



樋門の補修



堤防天端の補修

水害を想定した訓練（蘭越町主催）



訓練の状況



水防（月ノ輪）訓練



シート張工法

計画的な整備



河口部導流堤整備

(2)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- ・ 広域的かつ合理的な利用の促進を図るなど、関係機関と連携して必要な流量を確保する。
- ・ 渇水等の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制を整備するとともに、水利使用者相互間の水融通の円滑化などを関係機関及び水利使用者等と連携して推進する。

ウ 河川環境の整備と保全 (1/2)

- ・ 尻別川が育んできた多様な生物や良好な景観等を、流域の人々のかけがえのない財産として次世代に継承するように努める。
- ・ 流域の自然的、社会的状況を踏まえ、空間管理をはじめとした河川環境管理の目標を定め、良好な河川環境の整備と保全に努める。

動植物の生息・生育・繁殖地の保全

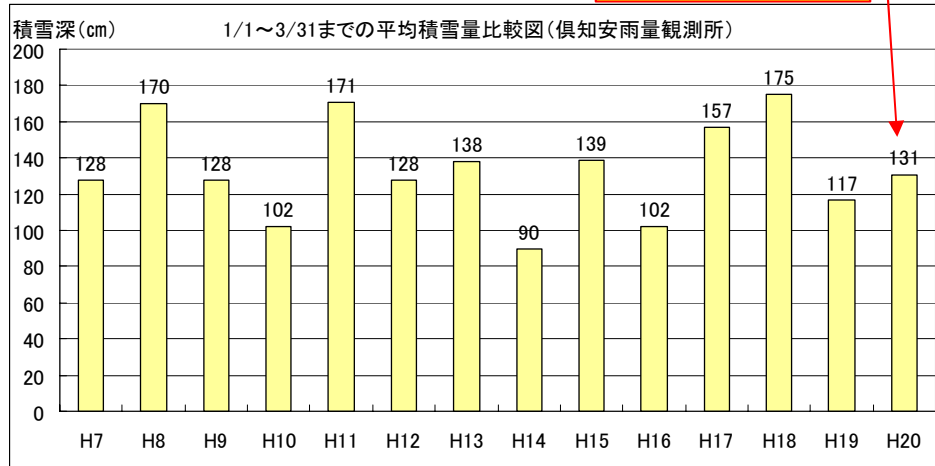
- ・ 多様な動植物を育む瀬・淵やワンド、河岸、河畔林等の定期的なモニタリングを行いながら、生物の生活史を支える環境を確保できるよう、治水面や周辺の土地利用との整合を図りつつ、良好な自然環境の保全に努める。
- ・ アユやサクラマス等の生息及び産卵に適した河川環境となっていることから、河道形状に配慮し、保全に努める。下流の河畔にはミクリ等の貴重な植物、河口部の砂丘植生などが見られ、多様な環境となっている。

今年の渇水について①

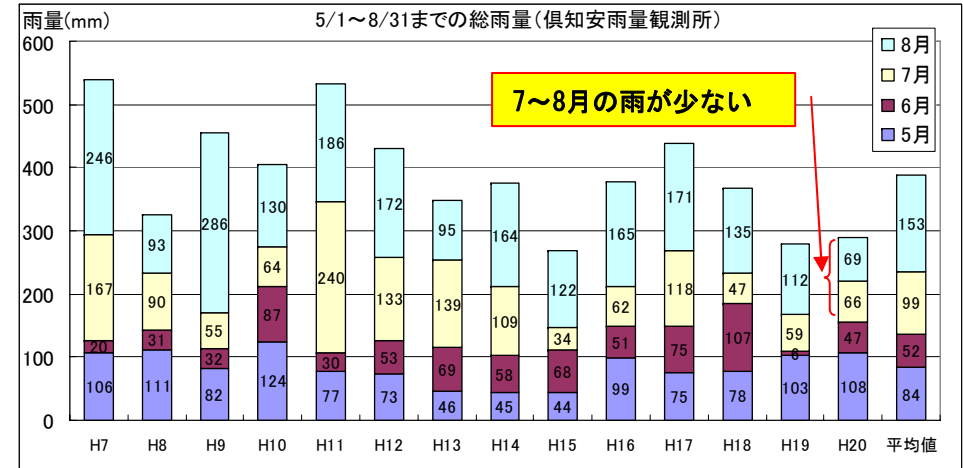
◆ 今年は1月～3月の積雪は例年どおりであったが、3月の気温が高く、融雪が早期に発生したと考えられる。また、融雪後の雨量が少なかったため、例年と比べ渇水傾向にある。

積雪は例年どおり

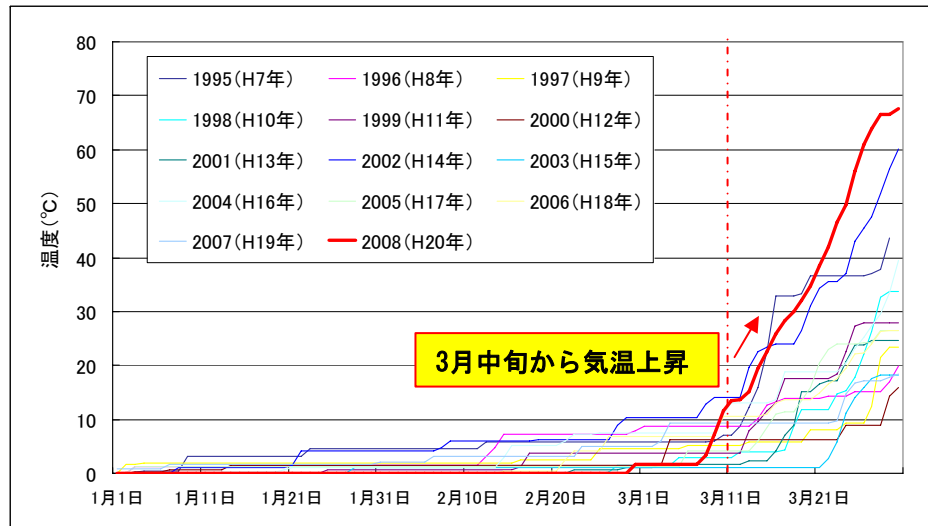
※H20の値は速報値



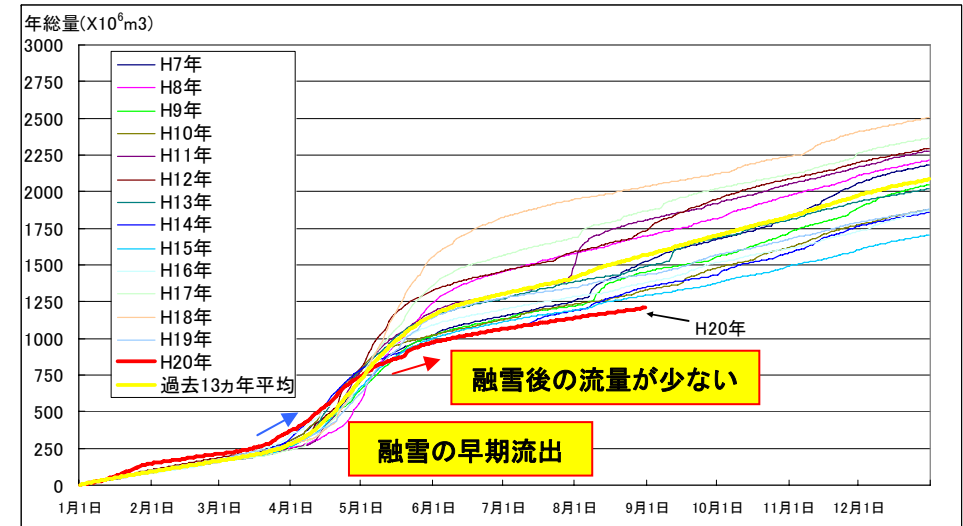
倶知安地点 平均積雪量比較図



倶知安地点 月別雨量比較図



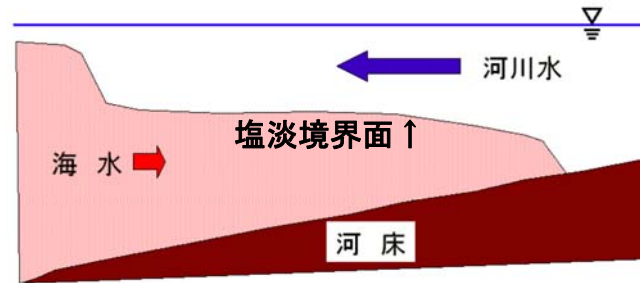
倶知安地点 気温加積図



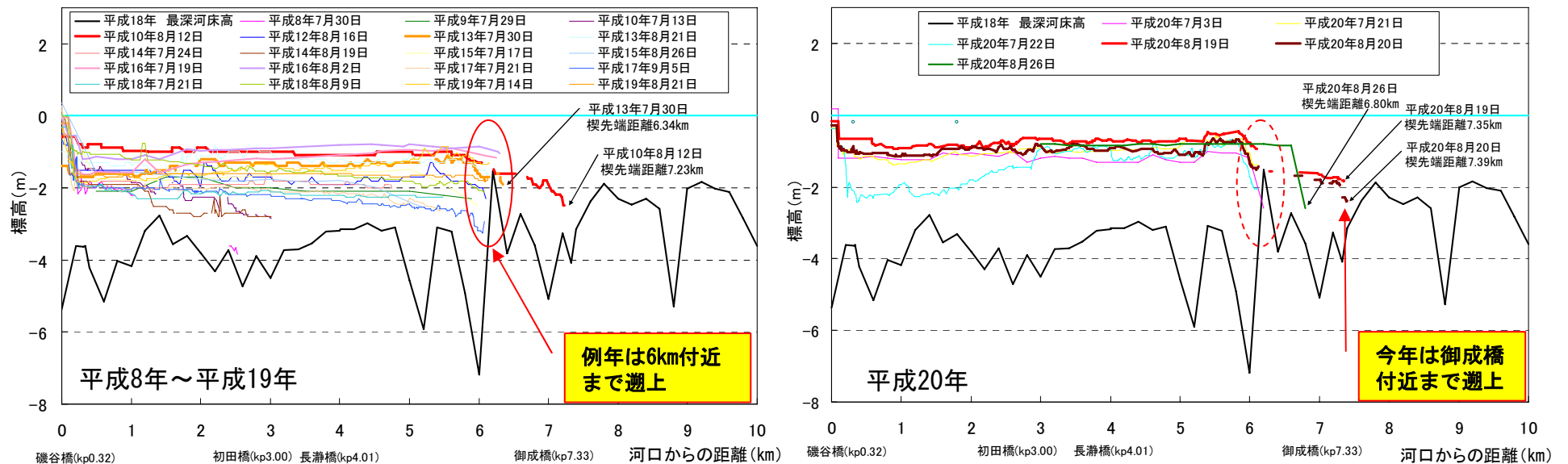
名駒地点 流量加積図

今年の渇水について②

- ◆ 河口付近は、海の水（塩水）と川の水（淡水）が押し合い、塩水・淡水の2層となっている。



- ◆ 塩淡水境界面は、例年では河口から6km付近まで遡上する。今年では早期融雪・夏期の小雨により、渇水状態が長期間継続し、御成橋付近まで遡上している。



塩淡水境界面観測結果

河川環境の整備と保全

◆尻別川の河川環境（尻別川が育んできた多様な生物や良好な景観）

- ・アユ、カワヤツメ、サケ、サクラマス、イトウ等を代表とする魚類及び多種多様な動植物が生息・生育する環境
- ・羊蹄山を背景とした河川景観、周辺と調和した水辺景観
- ・清流日本一の良好な水質



◆河川環境の整備と保全（尻別川水系河川整備基本方針 抜粋）

- ・生物の生活史を支える環境を確保できるよう、治水面や周辺の土地利用との整合を図りつつ、良好な自然環境の保全に努める。
- ・河道形状に配慮し、多様な環境の保全に努める。
- ・良好な水辺景観の維持、形成に努める。
- ・関係機関との連携・調整、地域住民との連携を図りながら、良好な水質の保全に努める。
- ・多くの人々が川に親しめる空間となるよう、関係機関や地域住民と一体となって取り組む。
- ・環境や景観に関する情報収集やモニタリングを行い、河川整備や維持管理に反映させる。

河岸保護工①

- ・掘削で発生した玉石等は河岸保護工に極力使用する。
- ・魚類の生息環境に配慮する。

河岸保護工

河川敷地

▽ 平水位



河岸保護工事（H19施工）施工後1年経過

ウ 河川環境の整備と保全 (2/2)

良好な景観の維持・形成

- ・ 治水面と整合を図りつつ、羊蹄山を背景とした河川景観等の維持、形成に努める。

人と河川の豊かなふれあいの確保

- ・ 関係自治体や地域住民のニーズ及び歴史・文化等を踏まえ、自然との触れあい、パークゴルフ等の河川利用、環境学習の場として、多くの人々が川に親しめる空間となるよう、関係機関や地域住民と一体となって取り組む。

水質

- ・ 下水道等の関連事業や、関係機関や地域住民と連携を図りながら良好な水質の保全に努める。

河川敷地の占用及び工作物の設置、管理

- ・ 治水・利水・環境との調和を図りつつ、貴重なオープンスペースとしての河川敷地の多様な利用が適正に行われるように努める。

地域の魅力と活力を引き出す積極的な河川管理

- ・ 地域のイベント、スポーツレクリエーション等地域住民の憩いの場として利用されていることも踏まえ、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進するとともに、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図る。

尻別川水系河川整備計画の策定までの流れ

